

学校名 (生徒数)	長浜市立虎姫中学校 (149人)
--------------	---------------------

(本研究に係る問い合わせ先)

所在地：滋賀県長浜市五村12番地

電話番号：0749-73-3302

### 【研究の目的， 研究内容】

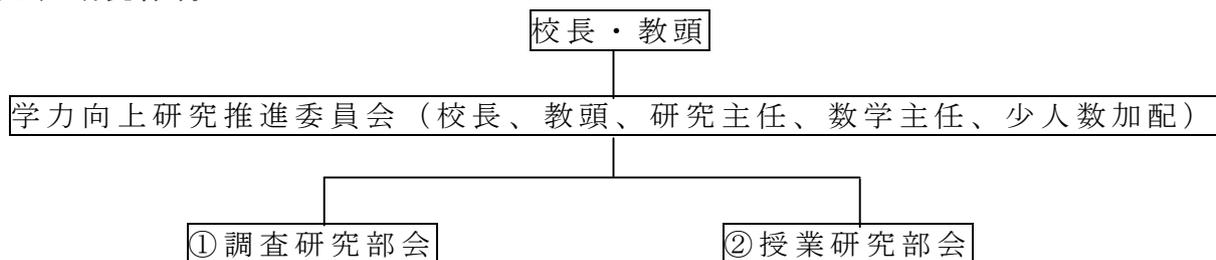
#### (1) 全国学力・学習状況調査の結果から見えた課題

- ① 図形領域での正答率が全般的に全国平均を下回った。
- ② 度数分布表を題材にした問題の正答率が全国平均を下回った。

#### (2) 課題解決に向けた改善策

- ① なぜを問う発問や学習課題の与え方の工夫。
- ② 自力解決の思考過程が分かるノート指導。
- ③ 小グループ活動による意見交流の充実。
- ④ 小テストの継続的实施。
- ⑤ 家庭学習の評価と指導。

#### (3) 研究体制



#### (4) 1年間の主な取組の経過

- ・ 4月23日(水) 第1回研究推進委員会「研究の主題、内容と方法、分担」
- ・ 4月24日(木) 全国学力・学習状況調査の自己採点
- ・ 5月14日(水) 第2回研究推進委員会「研究の仮説、計画と具体的な方法」
- ・ 6月23日(月) 第1回授業研究会 2年数学科「一次関数」
- ・ 10月14日(火) 第2回授業研究会 1年数学科「方程式」
- ・ 11月4日(火) 第3回授業研究会 3年数学科「関数  $y = ax^2$ 」
- ・ 12月2日(火) 評価問題「関数  $y = ax^2$ 」の実施と自己採点
- ・ 2月10日(火) 評価問題「図形と相似」の実施と自己採点
- ・ 2月18日(水) 第3回研究推進委員会「評価問題の結果と今年度のまとめ」
- ・ 2月25日(水) 第4回研究推進委員会「今年度のまとめ」

#### (5) 具体的な研究内容・方法， 研究を進める上での工夫点等

##### ① なぜを問う発問や学習課題の与え方の工夫

自分で答えを見いだすことができる学習課題の与え方を工夫する。

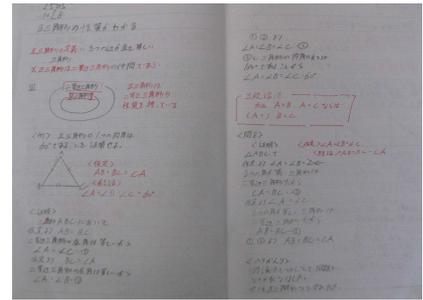
単に答えを導くだけでなく「なぜ」を問うことで根拠を明らかにしながら問題を解こうとできるようにする。

考えを深めさせる発問を積極的に取り入れる。

② 自力解決の思考過程が分かるノート指導（虎姫小学校方式の継承）

ノートは常に見開きにして使い、2 ページを1 時間の学習に当てる。

学習の流れに沿って、左ページに「学習課題」「自力解決」「友だちの考え」、右のページに「まとめ」「適用問題（評価問題）」「振り返り」を書く。

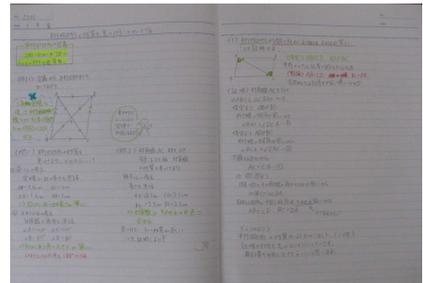


③ 小グループ活動による意見交流の充実

2 人グループや4 人グループでの意見交流の場を設けた。発言の場を多くすることで主体的な学習を促し、友だちの意見を聞くことで新しい発見や考えが深まるよう指導した。

④ 小テストの継続的实施

計算や定着させたい基本的な内容を中心に小テストを手作りし、ほぼ毎時間授業開始時に実施し、教師が授業後採点した。生徒の定着状況を把握し必要に応じて個別指導を行った。



⑤ 家庭学習の評価と指導

市販の問題集を2冊購入させ、毎日2 ページずつ家庭学習課題を出した。翌日提出させチェックし、良い取組については授業中に生徒に紹介した。内容が不十分な生徒については昼休みや放課後に個別指導を行った。

## 【研究成果と課題】

### （1）研究成果

- ①なぜを問う発問や学習課題の与え方の工夫を通して、単に正解が出せればいいという受け身的な学習姿勢から、数学的な意味をしっかりと捉えようとする意欲的な学習姿勢へと変化していった。
- ②自力解決の思考過程が分かるノートづくりを通して、筋道を立てて考えたり、自分の考えを工夫してまとめたり意欲的な姿が見られた。
- ③小グループ活動による意見交流を通して、発言の場が多く与えられ主体的に学習する姿が見られた。友だちの意見を聞くことで新しい発見があったり、自分の考えと比べてよりよい考えを見つけようとしたりする姿が見られた。
- ④小テストの継続的实施を通して、定期テストの点数分布が正規分布に近づいた。地域の学力テストにおいても、平均点で昨年より 7.6 ポイントの向上が見られた。基礎的内容の理解が進み、学習意欲の向上にもつながった。
- ⑤家庭学習の評価と指導を通して、問題集を解く際にも途中の式を筋道を立てて書き、思考過程を明らかにするなど、深く考える姿が見られるようになった。また、家庭での学習習慣が確立され基礎的内容の理解が進んだ。

### （2）課題等

- ①計算が苦手な生徒がいる。暗算を正確にする力を付けたい。全体的にも、計算のスピードが遅い。校内のテストでも計算領域での誤答が多い。
- ②昼休みや放課後に生徒を呼んで個別指導を行ってきたが、行事や部活動、完全下校時刻などとの兼ね合いで、思うように時間がとれないのが実情である。個別指導の時間の確保も課題である。